三方良し沖縄浸透

地域貢献のきっかけに

400人来場

三方良しの公共事業推進研究会（砂子邦弘理事長）は9日、地域建設業新未来研究会との共催による「三方良しの公共事業推進カンファレンス」を那覇市の沖縄県男女共同参画センターでひらいた。2007年5月の初開催から11回目となった今回は「北から南まで、全体最適の三方良し目指して」をテーマに設定。会場を埋め尽くす約400人が来場した＝写真。

冒頭、砂子理事長は「少子高齢化が進展する中、担い手確保や生産性向上など建設業の課題は山積しているが、少しずつでも前進しなければならない。地域に貢献するきっかけをつかんでほしい」とあいさつした。来賓の菊地春海沖縄総合事務局次長は「三方良しの活動は品確法を包含した取り組みだと思う。沖縄でも担い手確保は大きな課題になっている。地域、企業にとって魅力的な産業にしていかなければならない」と期待を寄せた。

基調講演では、磯部組（高知県奈半利町）の宮内保人技術部長が「信頼をつくる『三方よし』のモノづくり」をテーマにこれまでの活動を紹介した。パネルディスカッションでは、沖縄総合事務局開発建設部の喜舎場政秀技術企画官、北中城村の石渡一義総合調整監兼企画振興課長、沖縄建設新聞の喜久里睦代表、砂子組の近藤里史常務のパネリスト4人に、ゴールドラットコンサルティングの岸良裕司ディレクターがコーディネーターとして加わり、「三方良しの公共事業改革と沖縄観光振興」をテーマに意見を交わした。

また、全国の事例として地元・沖縄の金秀建設、丸政工務店による沖縄の特性を生かした取り組みのほか、砂子組（北海道奈井江町）のi―Constructionの事例、新潟県土木部の公共事業改革を紹介した。